

事業シート5

課コード: 000405000
 担当組織: 企画課

作成日: 平成24年4月1日
 責任者: 川嶋 朗夫

基本政策	課	政策	目	事業
計画コード	17	01	0242	01 024205

款	項	目	事項
予算コード	06	01	25 61

款	項	目	事項

事業名: 大学等高等教育推進事業

事業費 (予算) (単位:千円)	23年度	24年度	比較	人工 (正規職員) (単位:人)	23年度	24年度	比較
		5,560	1,560		4,000		0.6
24年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他
	50				1,470		40

事業の目的

静岡県西部地域の8つの大学は、それぞれ、学部、分野等に専門性、特長を有する。各大学間、また、大学と地域、行政との交流・連携をより活発にし、地域における学術、技術、文化の振興、教育研究機能を向上する。

事業内容(平成24年度に何をやるか)

静岡県西部地域の8つの大学と、浜松市、磐田市、袋井市の3市が連携する「静岡県西部高等教育ネットワーク会議」により、各大学間の交流・連携を深めるとともに、学生及び一般市民を対象とした共同授業の開催や、公開講座共同広報等の事業を展開し、各大学の専門知識や特色を地域の振興・発展に活かしていく。また、事業費は浜松市、磐田市、袋井市が負担する。共同授業、共同研究事業の実施に当たっては、各大学の当番制により準備、計画、授業実施を行う。

(主な事業)

- ・共同授業
- ・公開講座共同広報事業
- ・学生交流促進事業
- ・共同研究事業

これまでの取組状況(平成23年度に何をを行い、その結果はどうだったか)

静岡県西部高等教育ネットワーク会議の運営事務局として、事業を行った。

- ・共同授業、共同研究事業を各大学の当番制により実施した。
- ・共同授業(8大学から92名、一般市民9名が受講。平成23年10月～平成23年12月まで開講)
- ・公開講座共同広報事業(平成23年5月、10月の年2回発行)
- ・共同研究事業(全国FDフォーラムへの参加、FD情報交換会の開催)
- ・加盟大学間の交流を支援した。
- ・学生交流促進事業(平成23年12月10日開催)
- ・学生が主催する「Hamamatsu合同学園祭」への補助金交付(平成23年11月26日、27日開催)

開始年度	終了予定年度	事業の性格分類	根拠法令等					
平成 7 年	年	自治事務						
会計区分	戦略性	マニフェスト	事業の特徴	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
一般会計	-			-	-	-	-	-
行革審答申	外部評価	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
	*H20は事業仕分け	-	-	-				

(単位:千円)		H22	H23	H24	H25計画	H26計画	H23～26計
事業費	予算	7,602	5,560	1,560	1,560	1,560	10,240
	決算	5,552	1,550				1,550
財源内訳	国・県支出金						0
	市債						0
	その他						0
	一般財源	5,552	1,550	1,560	1,560	1,560	6,230
	*一般会計繰入						0
人件費(報酬等)							0
人件費		4,800	4,800	3,200	3,200	3,200	14,400
内訳	人工(正規)	0.6	0.6	0.4	0.4	0.4	
	人工(非常勤)						
	人工(再任用)						
年間経費(事業費+人件費)		10,352	6,350	4,760	4,760	4,760	20,630

成果指標1		共同授業受講者数					
種類	アウトプット(活動指標)	単位	H22	H23	H24	H25	H26
	目標	人	120	140	160	180	200
	実績	人	69	101			

成果指標2							
種類		単位	H22	H23	H24	H25	H26
	目標						
	実績						

事業の成果(平成23年度末での目的の実現状況 活動ではなく状態)

- ・共同授業の受講者は、大学生92名、一般市民の聴講者9名が参加し、平成22年度に比べ30名くらい増加した。共同授業の開講初日には、職員等も交えて昼食会を行い、約40名が参加し意見交換を行った。
- ・学生交流促進事業は、共同授業開講期間中に行い、講義のテーマである「人間と環境」に合わせ、浜松市の中山間地域であるくんま水車の里にて蕎麦打ち体験を行った。13名の学生が参加し、他大学間の交流を行うことができた。
- ・「Hamamatsu合同学園祭」へ補助金を交付し、加盟大学の学生間交流や学生主体活動を支援した。(参加者数 = 25,000人)
- ・全国FDフォーラムの参加やFD情報交換会の実施を通して、FDの取り組みの全国事例や各大学の取り組みの情報を交換することで、今後の教育改善が相乗的に進展することを期待できる。

評価(平成23年度事業の評価)

(1) 必要性: 継続

(廃止した場合に考えられる影響)

学生数が減少していく中で、地域の大学の機能充実、地域における学術文化の振興、教育研究機能の向上を図るため、各大学間の交流・連携をより活発にするよう支援を継続していく必要がある。また、三遠南信地域の連携を見据え、参加大学を拡大していくなどの検討が必要である。

(2) 責任主体: 市

(市が実施しない場合に考えられる影響)

浜松市、磐田市、袋井市の負担金により事業を実施。共同授業、共同研究事業については、各大学の当番制により準備、計画、授業実施を行う。また、平成24年度からは静岡文化芸術大学が事務局を行う。

(3) 拡大・縮小: 現状

(理由)

浜松市、磐田市、袋井市の負担金により事業を実施。共同授業、共同研究事業については、各大学の当番制により準備、計画、授業実施を行う。

(4) 改善: その他改善

(理由)

三遠南信地域の連携を見据え、参加大学を拡大するなど検討を進める。負担金については、構成市からの拠出とし、現状を維持する。

今後の方向性 改善

ネットワーク会議の事務局が、静岡文化芸術大学で担うこととなり、今後は、行政の支援のあり方を含め、各大学の負担(人、負担金)も検討していく必要がある。また、三遠南信地域の連携を見据え、特に豊橋地域大学の参加、拡大を行っていく必要がある。

改革・改善(評価を反映して何を見直したか)

(1) これまでに実施した改革・改善(平成24年度予算で反映したものを含む)

- ・共同授業の受講者が、減少していることから、総会で各大学に学生の積極的な受講の呼びかけを依頼した。一般市民への受講募集については、浜松市では、6月の広報(広報はままつは6月20日号)に掲載したほか、袋井市、磐田市の広報にも掲載を依頼した。これにより、目標数に達成できなかったものの、22年度と比較して受講者数は増加した。
- ・「人間と環境」とのテーマを合わせ浜松市の中山間地域であるくま水車の里で蕎麦打ち体験を実施し、13名の学生が参加し、他大学間の交流を行った。
- ・大学ネットワーク会議をより活性化するため、平成24年度から静岡文化芸術大学が事務局の運営を行うこととし、大学による主体的な運営が期待できる。
- ・三遠南信地域の連携を深めていくため、豊橋3大学へ共同授業への参加を呼びかけたことにより、豊橋創造大学が自由科目として参加することとなった。

(2) 今後の改革・改善計画(いつまでに何をどう見直す)

- ・今後は、行政の支援のあり方を含め、各大学の負担(人的負担を含む)のあり方について検討していく必要がある。
- ・ネットワーク会議の主要事業である8大学共同授業は、毎年100名前後で推移しているが、交流・連携を活性化し、より多くの学生が受講するよう、各大学での取り組みを促す。また、三遠南信地域の連携を見据え、参加大学を拡大するなど、より多くの学生・市民が参加できるよう工夫する。
- ・将来を担う人材がより多く輩出するよう、地域の大学の持続的な教育改善を促進する。